

---

# 文化財めぐり について

---

久万高原町教育委員会事務局 生涯学習班

## 1 はじめに

久万高原町教育委員会では、社会教育の重点施策の一つとして、「文化の振興と文化財の保存・活用」に取り組んでいます。これらの大きな柱として①文化活動の支援と文化の振興②文化財保護認識の啓発及び文化財活用の促進③「上黒岩岩陰遺跡」等の適切な管理維持をあげています。そのうち、「文化財保護認識の啓発及び文化財活用の促進」の一環として、新採町職員・転入教職員町内文化財めぐりを毎年行っています。今回は、2020年度の取組について紹介します。

## 2 取組の内容

### (1) 活動の目的・理念

私たちのふるさと久万高原町の先人たちは、恵まれた自然環境のもと、長い歴史の中で薫り高い文化を育んできました。地域文化の創造の基盤となる貴重な文化財は、私たちの心の安らぎや潤いのある生活環境を提供してくれるだけでなく、町の歴史や文化の正しい理解に欠くことのできないものであります。私たちの貴重な財産である文化財を確実に後世に伝えるとともに、歴史遺産を活かしたまちづくりに役立てるため、新たにこの町に勤務することになった職員や学校の先生方が参加して、文化財に対する理解を深めてもらうことをねらいとして取り組みました。

### (2) 2020年度の見学地

#### ① 町指定史跡「八丁坂」

四国の「遍路道」は、弘法大師（空海）が定めた巡礼道になっており、700年以上の歴史があり、遍路道は、お遍路さんの通る道としてその地域文化とともに生き、住民の生活道としてさまざまな役目を担っていました。



しかし、車の普及に伴い通行量も激減し、その重要性が薄くなり、多くの場所で遍路道が削られたり、風化してたりしているところがあり、その中で「八丁坂」は、古遍路道が保たれている区間で、昔ながらの遍路道を歩くことで、江戸時代の道を体験してもらいました。

## ② 国指定名勝「面河溪」

天下の絶景と評される「面河溪」西日本最高峰の石鎚山の南麓に位置しています。昭和8年に名勝指定を受け、水の透明度やエメラルドグリーンと言われる美しさは特筆すべきものです。その恵まれた自然を実際に体感したことで、あらためて久万高原の自然豊かな素晴らしさを知ってもらうことができました。



## ③ 面河山岳博物館

面河山岳博物館へ行き、学芸員による詳しい解説を受けました。折しも収蔵資料展「やっぱりムシが好き」が開催されており、参加者の関心を引いていました。



## ④ 国指定重要文化財「旧山中家住宅」、国指定史跡「上黒岩岩陰遺跡」

県指定名勝「御三戸獄」に立ち寄り、その後国指定重要文化財「旧山中家住宅」、国指定史跡「上黒岩岩陰遺跡」に行きました。

山中家住宅は、18世紀中期～末期頃に建てられたもので、土間が狭く、部屋を1列に並べる間取りは、四国中央山地における民家の一典型として重要なものだという事を教えていただきました。

上黒岩岩陰遺跡は、世界的にも珍しい「石偶」をはじめ、縄文時代を語るうえで欠かせない多くの資料が見つかっています。約1万5千年前に人が住んでいたことや石に女性を描いていたことなどを説明で聞き、当時の生活の様子がよく分かったと参加者は大変驚いていました。

## 3 成果と課題

文化財に対する認識を深めてもらうことについては、固いイメージや難しく考えられている人もいます。そうした中、本町が実施している文化財めぐりは、知識だけでなく実際に現地や施設を見て歩き、その場所の匂いや空気、物などを直接体感してもらうという取組だと考えています。

今年度は、屋外での行動が大半なので三密の場面はあまりなかったですが、移動や説明にあたり、コロナ対策を意識して時間的な配分を行うとどうしてもワンパターンになりがちな側面がありました。

今後も、町内という限られた範囲での取組にはなりますが、行く場所は一緒でも違うストーリーを考えながら実践したり、常に情報をアップデートしたりするなどして、文化財がもつ奥深さを少しでも伝えられるよう努力したいと思います。